

☆≡ 2022 明星学園公開研究会

(オンライン方式 Zoom および youtube を併用)

◆期日: 2022年11月26日(土) 時間 AM10:00 ~ PM3:30

◆内容:

I. 全体会 特別講演(10:00~12:00) 西谷 修 氏

テーマ:「教育の基本に立ちもどる～話す生き物の養育」

西谷 修氏プロフィール : 哲学者。1950 年生まれ。東京大学法学部卒業。東京都立大学大学院人文科学研究科修士課程修了。明治学院大学教授、東京都立大学大学院教授、立教大学大学院特任教授を歴任したのち、東京外国語大学名誉教授、神戸市外国語大学客員教授。フランス文学、哲学の研究をはじめ幅広い分野での研究、思索活動で知られる。主な著書に『不死のワンダーランド』(青土社)、『戦争論』(講談社 学術文庫)、『夜の鼓動にふれる一戦争論講義』(ちくま学芸文庫)、『世界史の臨界』(岩波書店)、『戦争とは何だろうか』(ちくまプリ マー新書)、『私たちはどんな世界を生きているか』(講談社現代新書)などがある。ロシアによるウクライナ侵攻は、現代においても戦争は現実の問題であり、いつでも起こりうるものであるという事実を私たちに突きつけています。今年の全体会では、戦争という切り口から現代社会を見つめ、論じている 哲学者の西谷修氏をお迎えし、お話を伺います。この時代を生きる私たちにとって、教育はどのような意味をもつのでしょうか。皆さんと教育の基本に立ちもどり、考える機会となればと思います。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

II. 分科会(13:00~15:30)

小学校 国語 「豊かに読むことを豊かに書くことにつなげるためには」 昨年度は「子ども

の文章表現をどう読み合うか」というテーマで、日常の出来事から感じ、考えたことを、主題意識、相手意識のある文章で表現する子どもを育てることをめざしました。また、子どもが綴った文章表現から、その子らしい表現を認め、生き方を励ますことを大切に研究してきました。子どもの「表現力」は、豊かで深い「読みの力」との相互作用で育ちます。文学教材からさまざまな表現方法、仕組と仕掛を学び、主題・思想をつかんでいくことは、より自由に文章で自分を表現することができる子どもを育てることにきつと繋がっていきます。そのため、今年度は「表現力」の基礎を耕す、文学教材の「読み」の授業を公開します。参加者の

皆様には、公開研の授業事実から、昨年同様忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

講師 上西 信夫(文芸教育研究協議会) 司会 本校教諭(各分科会ごと)

授業者 1年生 菅野 将希「くじらぐも」 3年生 北村 奈穂「モチモチの木」

5年生 岡 祐輔「大造じいさんとガン」 (他の分科会は略)

- ◆**申込み** 明星学園小学校 HP「公開研」→Peatix(外部サイト)よりお申し込みください。費用:1,000円(資料代として/後日、報告集をお届けします)
申し込み期限:11月26日(土)AM10:00まで

- ◆**問い合わせ先** 0422-43-2197

公開研事務局:平山勲/教務事務:小林枝里子

- ◆**ご挨拶** あと2年で創立100周年を向かえる明星学園では、常に「研究」というものを大切にしてきました。100年前に絶対主義的教育目標とその実現を目ざす前近代的な画一主義の注入教授、とりしまり主義的訓練等に対して批判していくことは、並大抵のことではありません。しかし明星学園の創立同人である赤井米吉は、「その新たなる教科課程は従来のそれの如き厳格なる鐵鎖であってはならぬ。土地に応じ、学校に応じ、又児童個人に応じて可塑性あらねばならぬ。」と、それまでの教育とは違った道を模索し始めました。我々が重要視しなくてはならないのは教育の「方法」と「内容」です。「方法」については時代の流れとともに「受動的注入」から「主体的思考」へと変わってきました。さらに我々は学校を「教化」のための機関ではなく、生活・学習の共同体、つまり教師も子どももお互いに刺激し合い、共に学んでいく場であるとも考えています。そしてその教育の「内容」もまた、目の前の子どもたちの現状に即して考えられなければならないものです。ドルトン・プランの翻訳を手がけた赤井米吉ではありましたが、結果から言うと、赤井はこの案のもつ精神から、そこに多くの善きものがあることを認めつつも、明星学園において全面的に実施することを躊躇しました。その理由の一つは、このプランが教育の内容について語らず、学習の方法・形態の変革のみを問題にしている点にあります。赤井はこの学園において、教材研究こそ起こすべきだと考えていたのです。「方法」についても、「内容」についても、重要なのは、教育の科学的研究であります。そしてその「研究」は実際に授業を行ってそこから立ち表れる課題を見出すことによって行う研究であるはずで、明星学園では1960年代から、その研究を客観視するためにも「公開研究会」を開催してきました。今年度もコロナ禍の中の公開研究会、オンラインという形となりますが、皆様とともに研究をできる場があることの喜びを感じます。どうかそれぞれの分科会では、忌憚のないご意見を頂戴できればと存じます。

明星学園小学校校長 照井伸也

(明星学園公開研究会要項より抜粋)